

# 西中の風

継続と徹底

伊丹市立西中学校長

大西 規之

## ハチドリの一としずく

私は毎朝玄関から校門付近を掃除しています。今は、落ち葉も少なく校内の掃除がすぐに終わるので、校門北側の道路（空港線）の歩道の掃除をしています。校門を出てすぐ右に曲がって東へ進み、写真屋さんがある信号を北へ渡ります。それから西へと進み、時間があるときには学校前の信号を通り過ぎてさらに西へ進み、次の信号を南に渡って学校へ帰ってきます。タバコの吸い殻、缶、ペットボトルなどのゴミが多く落ちています。昨日きれいにゴミを拾ったはずなのに、次の日にはまた新しいゴミが落ちています。拾っても拾ってもゴミが落ちており、ほんの限られた場所しかきれいにできません。私1人の力ではどうにもならない無力感だけが残ります。だから毎朝、ゴミ拾いのモチベーションも下がり、ゴミを拾う気も失せてしまいます。しかし、ある時、「ハチドリの一としずく」という短い物語を読みました。その内容から「モチベーションが下がってはいけない」と気を取り直すことができました。ただ、自分にできることをするだけ。今もよっぽどのが無い限り、朝のゴミ拾いを続けられています。さて、「ハチドリの一としずく」とはいったいどのような物語なのでしょう。紹介します。

アマゾンの森が燃えていました。森に住む動物たちは、われ先にと逃げていきました。けれども、クリキンディという名のハチドリだけは、いったりきたり。くちばしで水のしずくを一滴ずつ運んでは、火の上に落としていきます。それを見た大きな動物たちは、「そんなことをしていったい何になる」とクリキンディを笑います。クリキンディはこう答えました。「私は、私にできることをしているだけ」

そうなのです。たった、これだけのお話です。でも、思わず、「そうだ、頑張れクリキンディと叫んでしまいました」。そして、自分は、笑って見ているだけの動物にだけはなりたくないと思うのでした。自分ひとりが、お年寄りに声をかけても、自分

ひとりが、空缶やゴミを拾っても、自分ひとりが、工事中の車線で道を譲っても、世の中は変わらないじゃないか。そうかもしれません。きっと、そうでしょう。そう簡単に、世の中は変わりません。でも、確実に、それは「ハチドリの一としずく」にはなるのです。笑って見ているだけの動物になるよりも、ハチドリになりたい。みなさんも、自分ができることをする「ハチドリの一としずく」を実践しませんか。いつか、森の火事がおさまることを信じて。



ハチドリ

※鳥類の中で最も体が小さいグループ 体重は2~20g程度

## 先生からもらった一言（Ⅲ）

引き続き、インターネットから拾った「先生からもらった一言」について書きます。ぜひ、みなさんもこれらの「一言」を励みとして、日々の生活を送ってください。

### ・落ちているゴミに気づける人になりなさい

中学に入学して初めての授業で先生が言った言葉です。落ちているゴミはもちろん、もし誰かが困っていたら、まず、気づける人になりなさい、と。大人になる私たちに、大切なことを教えてくれました。

### ・謝る勇気を持ちなさい

学生時代、友だちと喧嘩して悩んでいたら、先生から言われました。謝らない意地より、謝る勇気を持ちなさい、と。そのあと勇気を出して謝り、仲直りできました。先生に感謝しています！

・無償の努力は今しかできない

高校時代、先生が授業中にくれた言葉です。大人になると、見返りを求めることが多くなる。学生の今この時に出来ることを、仲間同士、精一杯やろう！と言われ、おかげで、悔いのない高校生活を送ることができました。



**ホームページを日々更新中！！**